



# 金融財政

2006年(平成18年) 11月9日 (木) 第9788号 (購読料金 月額税込み5,565円)

## 働くことの意味



お茶の水女子大学教授 篠塚英子

大学の授業で、ドナルド・ドーア氏「働くということーグローバル化と労働の新しい意味」

(2005年)をテキストにディスカッションを行っている。技術革新によって生産性が向上し、経済的「進歩」をもたらしたが、問題はその進歩の結果、人々への恩恵がどこに表れたかである。

ドーア氏は余暇時間の増大(裏返せば労働時間の削減)が4分の1だけで、残りは消費拡大(4分の3)に貢献したと指摘する。先進諸国の労働時間が大幅には減少していない実態に、学生たちはかなりショックを受けた。

確かにJ・Mケインズは1930年「われわれの孫たちにとっての経済的可能性」の論文で、100年後には技術革新のもたらす恩恵によって「週15時間程度」の労働で済む社会になっている、と予言した。孫世代にあたる学生たちが20数年後の働く世代にあっても、依然としてこの予言の実現可能性は低い。

学生たちのショックは現在の豊かな経済社会を築き上げてくれた両親を含む

人たちが、何のために働いてきたかを直視したからである。ゆつたり家族・友人と余暇時間を楽しむためよりも、稼いだお金でモノを購入することを選んだのだ。モノはあらゆる場所であふれ、豊饒を越え「過剰」と格闘している。

手元に長谷川健郎写真集「奇妙な風の日」(06年)がある。斎藤環氏の推薦文は「豊饒なる貧困、永遠に進行し続ける過去」の肖像とあり、その的確さに舌を巻く。私たちの汗の結晶の末路は、廃棄されたワイン瓶、公衆電話、車、古着、パチンコ廃台、死を待つだけの捨て犬等々まで死屍累々。市場競争経済の過去の姿である。

しかし過去の問題だけでは済まない。未来の姿を髣髴させる事態が着々と進行している。高校の卒業必修科目の履修漏れが全国540校にも上っていることが明らかになった。教育の現場でも受験に「無駄な科目」の廃棄が行われている。教育の市場原理導入を産業界の誰が咎められよう。

将来の有能な労働予備軍たちを、この醜悪な廃棄の山に駆り出さずに済むよう、現役世代の責任は大きい。

## CONTENTS

- 解説 「在庫・売掛金」担保に、事業サイクル見極め (中村廉平) 2
- 〈連載〉銀行は変わる—新しい融資手法(1)ABL 2
- BANCO 3人目の子供を (額賀 信)…………… 3
- 照一隅 労働需給逼迫で賃金改善か (雲雀) …… 5
- 政経深層 広がる法曹界の門戸 (岡 憲策) …… 9
- 解説 高利引き下げ当然、サラ金業界は規模縮小を (宮坂恒治) 一貸金業法案と庶民金融のあり方……………10
- 解説 不冴えな「消費」気掛かり、IT在庫調整も (公文 敬) —11月の景気動向と金融情勢……………14
- カラム・コラム (藤原作弥) ……15
- マーケットレーダー 強過ぎる日銀の期待 (牧野義司) ……19